

越  
後  
の  
名  
木  
28

悠仁様の  
「お印」  
高野槇  
(こうやまぎ)



最近、殺伐とした話題の多い中、9月に秋篠宮様に親王悠仁様のご誕生になり、久しぶりの明るいニュースに国民が祝福ムードに包まれました。

悠仁様の「悠」には「悠久」「悠然」などの熟語があるように「ながい、ゆったりとした」という意味があり、「ゆったりとした気持ちで、長く久しく人生を歩んでいくことを願って」命名され、「お印」となった高野槇(こうやまぎ)には、「大きくまっすぐに育ってほしい」との願いも込められているそうです。

この高野槇は日本特産の常緑高木で、和歌山県の高野山に多いことに由来し高さは40m、幹周りは2m、円錐形の樹形が美しくヒマラヤスギ、ナンヨウスギとともに世界3大庭園樹として有名で、耐湿性に優れているため風呂桶や船材、柱材に使われています。

皇居内や秋篠宮ご一家のある赤坂御用地内にも植えられていますが、悠久山公園内泉翠池の北側に高野槇がありました。

市民からお山の愛称で親しまれ、悠仁様のお印である高野槇が同じ「悠」の字を使用している悠久山公園に植えられていたのは、何かのご縁があるように感じられます。

樹齢100年、樹高15m、幹周り2.1m、満開の桜の中、大きくまっすぐに伸びたこの高野槇を悠仁様のご成長に重ね合わせながら見守っていきたいと思います。みなさんも高野槇を探しに訪れて見てはいかがでしょうか……。

松木



山河花園

三月の降雪には驚きました。毎日暖かくて春が来たかと、冬囲いを外した人や、早々と夏タイヤに履き替えた人達は慌てたようです。約六十年ぶりの雪のない冬は除雪車の出番もなく、暖冬の影響は様々でした。

●能登半島地震では、日本列島に住む限りどこでも地震に襲われる事を再認識させられました。阪神淡路や中越地震の経験が、復旧活動に大いに活かされている様子を報道で実感しました。さっそく長岡市でも専門職員の派遣と、義援金の募金箱が山古志支所や仮設住宅などに設置されました。

●博報堂生活総合研究所の「未来年表」を見ました。いろいろな分野の二一〇〇年までの変化が年ごとと予測されていて、興味深く読ませて貰いました。私が七〇歳になるとアルツハイマー病の特効薬が開発され、八〇歳の時、厚生年金給付水準が、現役世代の手取り収入の五四・二%になり、また、小惑星が三〇〇分の一の確率で地球に衝突するそうです。物騒な年みたいですが、大震災の予測は見つかりませんでした。●秋の紅葉も見事ですが、山々が淡い緑や濃い緑に包まれ行く、新緑の時期も見逃せません。若葉に覆われた林、あちこちにサクラやヤマボウシが咲いていたりして……、生き物全てが生命感に満ち溢れる季節です。

UQ記